

平成24年度採択プログラム 中間評価調書
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要

(中間評価後修正変更版)

[公表。ただし、項目13については非公表]

| 機関名 | 金沢大学 | 整理番号 | L01 |
|---|--|--|-----|
| 1. 全体責任者 (学長) | ※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) やまざき こうえつ 氏名・職名 山崎 光悦 (金沢大学学長) | | |
| 2. プログラム責任者 | (ふりがな) なかむら しんいち 氏名・職名 中村 慎一 (金沢大学副学長(研究担当)) | | |
| 3. プログラム コーディネーター | (ふりがな) かがみ はるや 氏名・職名 鏡味 治也 (金沢大学大学院 人間社会環境研究科 研究科長・教授) | | |
| 4. 類型 | L<複合領域型(多文化共生社会)> | | |
| 5. | プログラム名称 | 文化資源マネージャー養成プログラム | |
| | 英語名称 | Graduate Program in Cultural Resource Management | |
| | 副題 | | |
| 6. 授与する博士学位分野・名称 | 博士(社会環境学 又は 文学 又は 学術) 付記:文化資源マネージャー養成プログラム修了 | | |
| 7. 主要分科 | (① 文化人類学) (② 史学) (③ 哲学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 | | |
| | 計算基盤、文化財科学・博物館学、地域研究、芸術学、言語学、法学、政治学、経済学、社会学、教育学 | | |
| 8. 主要細目 | (① 文化人類学・民俗学) (② 考古学) (③ 美術史) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入 | | |
| | メディア情報学・データベース、文化財科学・博物館学、地域研究、宗教学、思想史、美学・芸術諸学、芸術一般、言語学、国際法学、政治学、国際関係論、財政・公共経済、社会学、教育社会学 | | |
| 9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。) | 大学院人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、同法学・政治学専攻、同経済学専攻、同地域創造学専攻、博士後期課程人間社会環境学専攻 | | |
| 10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名 | | | |
| 11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名 | | | |
| 12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名) | アジア太平洋無形文化遺産研究センター、金沢市、北京大学考古文博学院、チェンマイ大学大学院社会科学 研究科、バンドン工科大学芸術・デザイン学部、ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学 | | |

(機関名:金沢大学 類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:文化資源マネージャー養成プログラム)

| | | | |
|------------------------------|-----|-----------|----------------------|
| 14. プログラム担当者の構成 計 27 名 | | | |
| 外国人の人数 | 5 人 | [17.9%] | 女性の人数 7 人 [25.0%] |
| プログラム実施大学に属する者の割合 [74.0 %] | | | |
| プログラム実施大学に属する者 | | 20 人 | プログラム実施大学以外に属する者 7 人 |
| そのうち、他大学等を経験したことのある者 | | 10 人 | そのうち、大学等以外に属する者 2 人 |

15. プログラム担当者

| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 所属(研究科・専攻等)・職名 | 現在の専門学位 | 役割分担 (平成28年度における役割) |
|--------------------------|-----------|----|---|-----------------------|---|
| (プログラム責任者) 中村 慎一 | ナカムラ シンイチ | | 副学長、人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科、博士前期課程人文学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授 | 考古学、文化遺産学・博士(文学) | プログラムと全学的教育制度施策間の調整・連携 |
| (プログラムコーディネーター) 鏡味 治也 | カガミ ハルヤ | | 人間社会研究域人間科学系(人間社会環境研究科・研究科長、博士前期課程人文学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授 | 文化人類学・博士(学術) | プログラム運営主幹、伝承文化資源に関するカリキュラム整備、インドネシア協定校との連携・調整 |
| 藤井 純夫 | フジイ スミオ | | 人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻、後期課程人間社会環境学)・教授 | 西アジア考古学・博士(文学) | 形態文化資源に関するカリキュラム整備 |
| 中村 誠一 | ナカムラ セイイチ | | 人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻)・教授 | マヤ考古学、世界遺産学・修士(文学) | 形態文化資源に関するカリキュラム整備 |
| 森 雅秀 | モリ マサヒデ | | 人間社会研究域人間科学系(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授 | 仏教学、比較文化学・Ph. D | 文化資源情報学に関するカリキュラム整備 |
| 西村 聡 | ニシムラ サトシ | | 人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻、後期課程人間社会環境学)・教授 | 日本文学・博士(文学) | 伝承文化資源に関するカリキュラム整備 |
| 岩田 礼 | イワタ レイ | | 人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻、後期課程人間社会環境学)・教授 | 中国語学・文学修士 | 伝承文化資源に関するカリキュラム整備 |
| 西本 陽一 | ニシモト ヨウイチ | | 人間社会研究域人間科学系(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授 | 文化人類学・博士(学術) | 伝承文化資源に関するカリキュラム整備、タイ協定校との連携・調整 |
| 上田 望 | ウエダ ノゾム | | 人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻、後期課程人間社会環境学)・教授 | 中国文学・博士(文学) | 伝承文化資源に関するカリキュラム整備 |
| 矢口 直道 | ヤグチ ナオミチ | | 人間社会研究域人間科学系(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・准教授 | 東洋建築史・博士(工学) | 形態文化資源に関するカリキュラム整備 |
| 足立 拓朗 | アダチ タクロウ | | 人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻)・准教授 | 考古学、博物館学・博士(文学) | 形態文化資源に関するカリキュラム整備 |
| 大友 信秀 | オオトモ ノブヒデ | | 人間社会研究域法学系(人間社会環境研究科・博士前期課程法学・政治学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授 | 知的財産法、ブランディング・博士(法学) | 知的財産法に関するカリキュラム整備 |
| 正木 響 | マサキ トヨム | | 人間社会研究域経済学経営学系(人間社会環境研究科・博士前期課程経済学専攻、博士後期課程人間社会環境学)・教授 | 世界経済論・博士(経済学) | 世界経済論に関するカリキュラム整備 |
| 香坂 玲 | コウサカ リョウ | | 人間社会研究域人間科学系(人間社会環境研究科・博士前期課程地域創造学専攻)・准教授 | 森林政策、林業経済・博士(理学) | 伝承文化資源に関するカリキュラム整備 |
| 山形 真理子 | ヤマガタ マリコ | | 人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻)・特任教授 | 東南アジア考古学・博士(文学) | 形態文化資源に関するカリキュラム整備、ベトナム協定校との連携・調整 |
| 秦 小麗 | シン ショウレイ | | 人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻)・特任准教授 | 東アジア考古学・博士(文学) | 形態文化資源に関するカリキュラム整備、中国協定校との連携・調整 |
| 吉田 泰幸 | ヨシダ ヤスユキ | | 人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻)・特任准教授 | 東アジア考古学・博士(歴史学) | 形態文化資源に関するカリキュラム整備、プログラム運営補佐 |
| 松村 恵里 | マツムラ エリ | | 人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻)・特任助教 | 文化人類学・博士(社会環境学) | 現地研修・調査実習指導、国際ワークショップ企画運営指導 |
| 田村 うらら | タムラ ウララ | | 人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター(人間社会環境研究科・博士前期課程人文学専攻)・特任助教 | 人間環境学・博士(人間・環境学) | 現地研修・調査実習指導、国際ワークショップ企画運営指導 |
| 菅原 裕文 (H28.4.1追加) | スガワラ ヒロフミ | | 人間社会研究域歴史言語文化学系(人間社会環境研究科博士前期課程人文学専攻、博士後期課程人間社会環境学専攻)・准教授 | 文化遺産学、博物館学・Ph. D | 博物館学に関するカリキュラム整備 |
| 關 雄二 | セキ ユウジ | | 国立民族学博物館研究戦略センター・教授 | アンデス考古学、文化遺産学・社会学修士 | 博物館を利用した実習に関するカリキュラム整備協力 |
| 大貫 美佐子 | オオヌキ ミサコ | | ユネスコアジア太平洋無形遺産研究センター(IRCI)・副所長 | 無形文化遺産保護、継承学、文化政策・文学士 | 伝承文化資源に関するカリキュラム整備協力 |
| 河原 清 | カワラ キヨシ | | 元金沢市歴史文化・部長、金沢大学客員教授 | 都市政策論・博士(社会環境学) | 文化資源保護・継承・活用に際しての地方自治体政策に関するカリキュラムの整備協力 |
| 趙 輝 | チョウ キ | | 北京大学考古文博学院・院長 | 中国考古学・修士(考古学) | 留学生の推薦、本学との連絡・調整 |

(機関名:金沢大学 類型:複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:文化資源マネジャー養成プログラム)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

プログラムの概要

本プログラムは、人類文化の多様性とその相互尊重の理念を基盤に、世界各国・各地域で継承されてきた文化資源の将来に向けての意義と有用性を探求し、人類全体に向けたその活用策を案出・実践する「ローカルな文化資源のグローバルな活用を可能にする資源発掘・管理・活用策提案能力を身につけた人材」、すなわち**文化資源マネージャー**を養成することを目的とする。文化資源の活用は、ユネスコの世界遺産に代表される遺跡・遺物あるいは民俗芸能の観光利用のみならず、伝統的薬草や医療技術の近代医療への応用、伝統工芸の最先端技術への応用など、豊かな将来性がある。その一方で、国際的にも各国内的にも当該住民の文化的アイデンティティに国の政治的思惑や企業の経済利益が絡んで対立や衝突の絶えない、現代世界の直面する重要課題のひとつである。その早急な解決には、文化資源が持つ有用性を、一部の住民や国や企業の権利や利益に留めるのではなく、広く人類全体に開かれた管理・活用策を研究・立案できる能力を備えた人材の育成が急務である。本プログラムでは、「**形態文化資源**」「**伝承文化資源**」「**保護・継承・活用**」に関する知識と国際的・総合的・学際的視野を備え、**マネジメント能力**、**ファシリテート能力**、**ネットワーク形成能力**を備えた文化資源マネージャーの育成を目標とする。

そのために本プログラムは、海外交流校から募集する留学生4名と日本で募集する日本人学生4名のチームで5年間研究調査を行う体制をとる。1年次は講義による**基礎知識習得**と演習による**チーム・ビルディング**、**調査実習**、2年次は日本および留学生の出身母国での**文化資源継承・活用現場での研修**をチームで行い、**Qualifying Examination**に相当する**研究レポート**をまとめる。3年次は**国際ワークショップ**で発表と、学生各自の研究対象を確定するための日本国内外の**現場視察・予備調査**を行い、4年次には各自の関心・対象に応じて単独あるいは複数人で**インテンシブな現地調査**を行い、5年次に調査結果を分析・考察して**国際ワークショップ**で発表するとともに**学位論文を執筆・提出**する。これらの活動のほとんどを国際的な編成のチームで行うことで、コミュニケーション能力の向上と相互理解の基盤を築くだけでなく、出身各国の文化特質を確認し長所を見だし発信する能力が鍛えられる。こうした人材は、文化資源においても収奪される側に甘んじている発展途上各国の政府機関や、伝統知識・技術の応用に関連した企業の研究機関などで高い需要が見込まれる。

特色・優位性

本プログラムを支える素地として、まず金沢を中心とした本学周辺の豊かな伝統文化資源がある。**世界クラフト創造都市の金沢**には金箔・陶磁器・漆器などの伝統工芸が今もしっかりと継承され、また近在には**能登の世界農業遺産**、**白川郷の世界遺産**などがあり、そこでの文化資源継承・活用実態は先進事例として格好の研修現場となる。他方留学生の募集先に想定している中国・タイ・インドネシア・ベトナムはいずれも経済成長著しい国で、その伝統文化の継承・活用が国家的な優先課題になっている。交流協定校の**北京大学・チェンマイ大学・バンドン工科大学・ベトナム国家大学ハノイ校**は各国の筆頭大学の一つで、文化資源関連の研究・教育も盛んであり、優秀な学生の確保が期待できる。

本学ではこれら協定校と連携して各種事業を展開してきた。平成19～21年度大学院GP事業ではこれらのいくつかにリエゾン・オフィスを設置し、国際セミナーを実施した。平成21年度若手研究者交流事業では上記4大学他から14名の若手研究者を招いてアジア文化資源学リネージュ金沢セミナーを、平成23年度国際大学交流セミナー事業では同じく4大学の大学院生・教員10名を招いて文化資源学アジア学生フォーラムを実施した。学内では平成22年度に先端的研究拠点として**国際文化資源学研究センター**を設置し、所属教員はヨーロッパから中央・東アジア、アメリカ大陸に至るまで、世界各地でプロジェクトを実施している。また平成24年度には人間社会環境研究科博士前期課程に**文化資源学コース**を開設した。本プログラムは前掲センター所属教員を中心に、文化資源継承・活用現場での実務者も指導に加わることで、文化資源学コースでの教育効果をさらに高めるための特別プログラムである。

以上、本プログラム申請・実施主体の人間社会環境研究科には下地となる教員組織、学生募集先、海外協定校との研究者・学生交流の点で十分な実績がある。加えて地元金沢や学内担当教員、連携機関スタッフの調査研究地である世界各地の文化資源活用現場など、本プログラムの研修・調査対象候補地を豊富に有する。それらを活用し、日本人学生とアジア各国出身の留学生が1年次からチームを組んで、各国の文化資源継承・活用現場での研修・調査を行いながら、アイデアを交換・発信しつつ、各自が特定の対象についての活用方策を提言していく点に特色がある。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

